

# 多賀城跡

第91次調査現地説明会  
平成29年10月7日（土）  
午前10：30～



図版1 多賀城跡と調査区の位置（南西から）

## はじめに

当研究所では昭和44年以来、特別史跡多賀城跡の発掘調査と環境整備を継続して行なっています。外郭南門地区については、多賀城市が南門の建物復元と南北大路を復元的に整備する計画があり、それに先立って、今年度は第91次調査として、南北大路跡の調査を実施しています（図版1・2）。

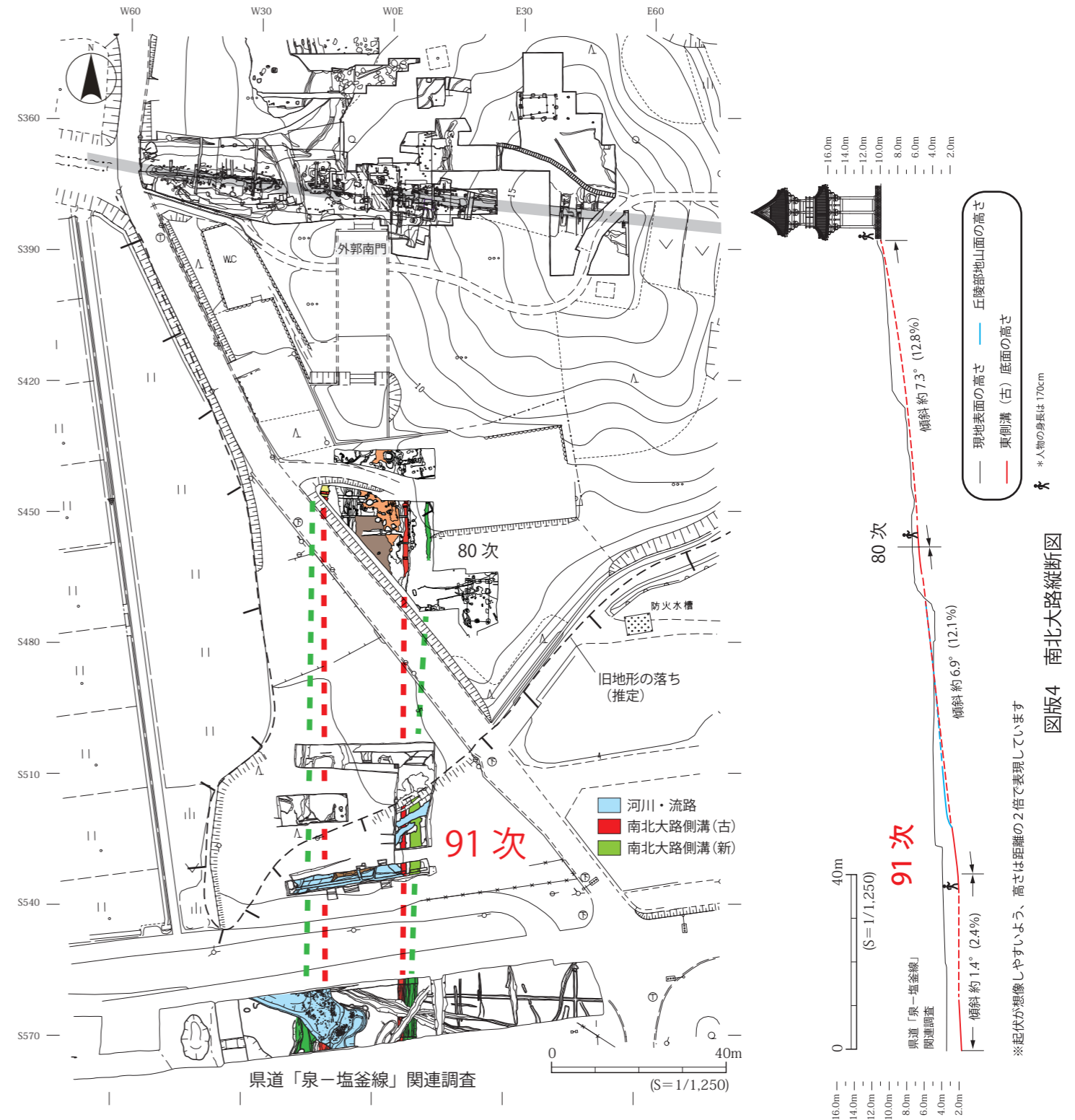
その目的は、南門跡から南に延びる南北大路跡の規模・構造とその変遷を明らかにすることにあります。



図版2 政庁・外郭南門跡と調査区の位置（南から）

## 南北大路跡の過去の調査成果

調査地は南門跡が立地する北東から南西に延びる丘陵の末端とその南に広がる沖積地で、南門跡の約140m南に位置します（図版3・4）。隣接する南北大路跡の調査例には、約60m北側の第80次調査と南側の宮城県による県道「泉-塩釜線」建設に先立つ調査があります。特に後者の調査では、奈良時代（8世紀中葉～末頃）には約17～18mであった南北大路の幅が、平安時代（8世紀末～10世紀後葉頃）には約24mに広げられたと報告されています。

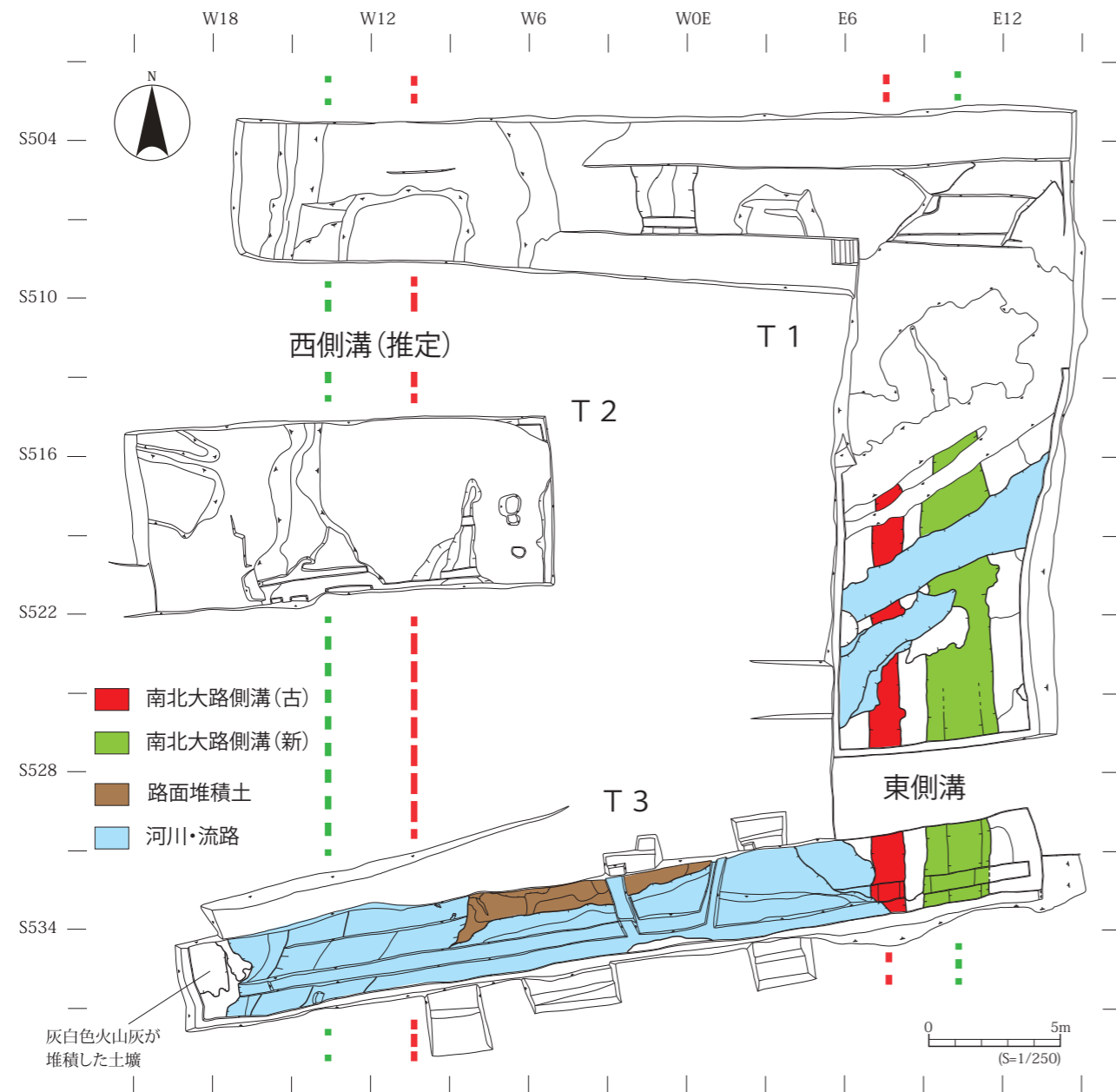


図版3 第91次調査区と周辺の調査区

図版4 南北大路縦断面

## 調査成果

県道「泉-塩釜線」の調査でみつかった南北大路跡北側の丘陵部と沖積地にT1～3の調査区を設定して調査しました。その結果、①南北大路跡の東側溝と路面、②十和田山の噴火によるとみられる灰白色火山灰降下（10世紀前葉頃）以降の河川や自然流路、③灰白色火山灰が堆積した土壌を発見しました（図版5）。遺物は土器、陶磁器、瓦、石製品などが平箱で6箱分出土しています。以下、主な成果として①南北大路跡について説明します。



図版5 第91次調査区平面図

### 調査要項

所在地：宮城県多賀城市市川字田屋場内  
 調査指導：多賀城跡調査研究委員会（委員長 佐藤 信）  
 調査主体：宮城県教育委員会（教育長 高橋 仁）  
 調査担当：宮城県多賀城跡調査研究所（所長 須田良平）  
 調査協力：多賀城市教育委員会

調査員：須田良平・吉野 武・白崎恵介  
 生田和宏・廣谷和也・高橋 透  
 調査期間：平成29年5月22日～10月20日（予定）  
 調査面積：約630㎡

## 南北大路跡の調査成果

東側溝とみられる2条の南北溝と路面を発見しました。ともにほぼ真北方向に延びています。過去の調査例からみて、西側が奈良時代（8世紀中葉～末頃）、東側が平安時代（8世紀末～10世紀後葉頃）の東側溝と考えられます。なお、西側溝は10世紀前葉頃以降の河川・自然流路や現代の地形の改変で壊されており、残存していませんでした。

### 【東側溝（古）】

約17m分を検出しました。規模は上幅が1.8m、下幅が0.8m、深さが0.5mで、断面形は逆台形状をしています。新しい側溝を造るにあたって埋め戻されていました。

### 【東側溝（新）】

約18m分を検出しました。位置をずらしながら3回ほど改修されています。残存状況の良い最も新しい溝の規模は上幅が1.7m、下幅が0.5m、深さが0.4mで、断面形は逆台形状をしています。溝が埋まるたびに掘り直されていました。

### 【路面】

大部分が灰白色火山灰降下（10世紀前葉頃）以降の河川や自然流路に壊されていましたが、残存状況の良いT3中央北側部分では、路面を構築する際に土を盛って整地をしていることが分かりました。また、路面上には砂が堆積している部分があり、たびたび水が流れていたと考えられます。

### 【道路幅について】

T3西側では、西側溝は残存せず、灰白色火山灰降下（10世紀前葉頃）以降の河川や自然流路によって壊されていました。東側溝や河川・流路の位置と、南側の調査例をあわせて考えると、調査地内での道路幅はおおむね奈良時代は13～18m、平安時代は24～28mと推定できます。

### 【沖積地と丘陵部の道路の高低差について】

沖積地から丘陵に上がる部分の古い東側溝には段差が認められました。路面にも段差があった可能性や、多量の盛り土を丘陵裾にすりつけて傾斜を調整した可能性が考えられますが、今後の検討課題です。

## まとめ

### 1 南北大路跡の東側溝と路面を発見しました

東側溝では新旧あわせて都合4回の改修が行なわれたこと、路面では構築方法やたびたび水が流れていたこと、古い東側溝には段差があったことがわかりました。

### 2 南北大路跡の道路幅を想定できました

西側溝は河川や自然流路に全て壊されていましたが、河川や流路の位置からみて調査地内でも過去の調査例とおおむね同じ道路幅であったことが考えられました。

### 3 南北大路の造り方や維持管理の状況を見る上で貴重な手がかりが得られました



多賀城跡調査研究所  
 〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1  
 TEL：022-368-0102  
 FAX：022-368-0104  
<http://www.thm.pref.miyagi.jp/kenkyusyo/>

